

序

当教育研究所は、昭和60年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部、翻訳の部に分けて原稿を募集しましたところ、各学校の先生や公民館の方々から16編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、16編のうち3編が論説、11編が実践記録、翻訳、研究が各1編となっています。

論説の内容は、一つは、情報システムに焦点をあて、行政機関によって提供される情報のあり方を考察したものです。また、一つは、小・中学校の交流について考察し、積極的な交流の重要性について提言しています。もう一つは、英語指導主事助手が、援助指導の体験を通して、外国人教師の活用の仕方を示唆してくれるものです。

実践記録については、教科に関するものをはじめ、道徳、学級会活動、現職教育、環境衛生など、学校教育活動の全体像をしっかりととらえ、児童・生徒が学んでいるところに視点をあてた研究実践であり、新しい研究の方向がうかがえるものです。

翻訳の部は、前年度の「生涯教育のめざすもの」に続くものであり、生涯教育の原理を理解するうえで多いに参考になるものと思います。

また、自主的な研究として寄稿された江戸時代の農村社会の研究は、同和教育推進上、貴重な資料となると思います。

いずれの論文も、最近の教育思潮を的確に把握しながら、学校ぐるみで研究したものをはじめ、先生方の組織的・継続的な研究実践が多く見受けられます。

これらの教育論文は、読者自らの教育観を深める契機となるにちがいありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも、各学校における日々の教育実践に十分に生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待します。

終わりに、論文をお寄せくださった学校の先生方をはじめ、関係者の方々にお礼を申しあげるとともに、みなさまのますますのご活躍を祈念して序といたします。

昭和61年3月

足利市立教育研究所
山 崎 政 三